

血管性認知症 (VaD)

脳梗塞、脳出血など脳血管障害が主な原因で起こります。高血圧、糖尿病、脂質異常症、不整脈などのある人は発症しやすいことが知られています。認知症があり、脳血管障害の病変が確認できる患者に発生します。病変の部位により、多発性梗塞型、小血管病変型、単一病変型、脳出血型、低灌流型に分類されています。

(症状)

血管病変の部位により、症状が異なります。アルツハイマー型認知症に比べて突発的な発症と段階的悪化が特徴的です。症状が不安定で、精神症状（興奮、抑うつ、アパシー）もしばしばみられます。脳血管障害にともなう片麻痺、感覚障害などの神経学的所見がみられることが多いのも特徴です。

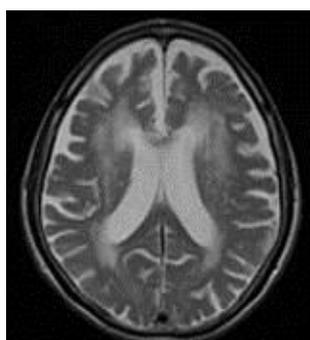
(診断)

問診（脳血管障害の既往の有無）、神経学的所見が重要です。認知症の原因として脳血管障害病変を確認するには頭部 MRI、脳血流 SPECT が有用です。

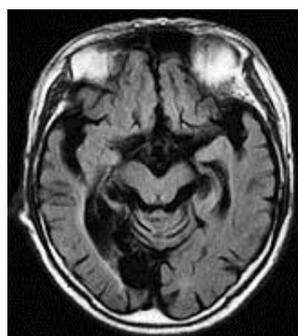
(治療)

脳血管障害の原因を確定し、動脈硬化の危険因子である高血圧症、糖尿病、脂質異常症、心疾患などを管理することが、脳血管障害の再発を防ぐうえで重要です。そして脳血管障害の再発を防ぐことが、認知機能の悪化も予防法となります。

VaD 患者の頭部 MRI



(A) 多発脳梗塞型



(B) 単一病変型